

平成 29 年度
和歌山市

地域福祉 ひろがる BOOK

市民団体と一緒に考えた、地域福祉をひろげるヒント

和歌山市では住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる「我が事の地域づくり」に向けて、
地域福祉を考える「地域福祉ひろがるカレッジ」を実施しました。

そこで市民団体の皆さんと話し合い、地域福祉をひろげるヒントについて考えました。

この BOOK ができるまで

1

2017.09.29 講演会

studio-L 代表・山崎亮さんによる講演会を開催。
そこで、公開講座の内容を一緒に考える 5 つのモデル団体を募集しました。



2

2017.10.24 モデル団体キックオフ

モデル 5 団体が集まり、お互いを紹介し合いました。
また studio-L より地域福祉に関わる事例を紹介し、
自分たちが目指したい活動を考えました。



3

2017.11~12 モデル団体と個別相談

studio-L がモデル 5 団体を個別に訪問し、地域や
団体の課題や、活動に必要な講座の内容について話し合いました。



4

2018.01.12 & 01.24 公開講座 (全 2 回)

モデル団体との話し合いをもとに講座の内容を企画し、公開講座を 2 回開催。「共感を集める活動」「仲間づくり」「資金集め」について学びました。



2017.09.29

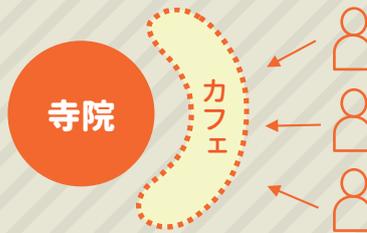
講演会 & 地域福祉ひろがるカレッジの紹介 (ゲスト: studio-L 代表・山崎亮さん)

地域の人たちが自分たちで課題解決に取り組むコミュニティデザインを支援する studio-L の代表・山崎亮さんより、**全国の地域づくりに関する事例**を教えてくださいました。分野が多様な活動ですが、地域福祉の参考になる点がたくさんありました。また事務局より、地域福祉ひろがるカレッジの内容について紹介しました。



事例 根室別院 (北海道根室市)

お寺は全国に 5 万以上ありますが、その担い手や訪れる人は減っています。そこで浄土真宗の根室別院では「お寺を拠点にして、地域のつながりを再生しよう」をテーマとして、地域住民がみんなでお寺をカフェにする取り組みを進めています。



事例 高浜市地域福祉計画 (愛知県高浜市)

高浜市の地域福祉計画の策定は、福祉に関わりのなかった人たちも参加しながら進めました。「楽しく幸せに暮らす仲間を増やす」ことを目的に、若い人たちを積極的に巻きこみ、みんなで映像を作って、計画をわかりやすく表現しました。



2017.10.24

モデル団体キックオフ (ゲスト: studio-L・出野紀子さん)

応募していただいた 5 つのモデル団体に集まっていただき、キックオフとして勉強会を実施しました。団体同士でお互いの活動内容を共有しました。また studio-L のメンバーであり、主に東北地方でコミュニティデザインに携わる出野紀子さんより、**地域福祉に関する事例**として秋田県秋田市の取り組みについて教えてくださいました。



事例 2240 歳スタイル (秋田県秋田市)

秋田市では元気な高齢者の暮らしを明らかにして実践するプロジェクトが始動。高齢者ではなく「先輩」と呼び、元気な先輩たち 29 人・計 2240 歳の暮らしを展示する展覧会「2240 歳スタイル」を開催し、豊かなライフスタイルを幅広い世代と共有しました。



事例 年の差フレンズ (秋田県秋田市)

2240 歳スタイルでの調査から、豊かな暮らしには年の差のある友達を 3 人以上持つことが重要だとわかりました。そこで秋田市では、健康寿命を伸ばすのに必要な「運動」「食事」「社会参加」をテーマとした活動を通じて、年の差のある友達づくりを進めています。



モデル5団体との話し合いをもとに、「地域を元気にする福祉を学ぼう」「活動の仲間づくりを考えよう」というテーマで、全2回の公開講座を開催しました。第1回では、**地域を元気にする活動の事例**として泉北ニュータウンの取り組みを共有しました。また**仲間を集めるのに必要な共感を生み出す「3つの輪」**について学びました。



事例 泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト (大阪府堺市)

泉北ニュータウンは高齢化などにより地域の魅力が低下していたことから、地域の魅力を活かす活動を考えました。例えばレモンの街ストーリーでは自宅の庭にレモンの木をもつ人が、苗木を広めて街にレモンを増やす活動を始め、レモンの特産品も開発しています。



大切 活動の共感を生み出す3つの輪

活動の共感を生み出すには、右記の3つの輪が大切といわれています。「やりたいこと」と「求められていること」だけでは「夢」で終わり、「やりたいこと」と「できること」だけでは趣味の域を出ません。また「求められていること」と「できること」だけでは「労働」になります。レモンの街ストーリーでは、「やりたいこと」に「泉北にレモンを」、「できること」に「レモンの商品づくり」、「求められていること」に「地域の魅力発信」があり、この3つが重なることで共感を広げることができました。



第1回を終えて、活動資金の集め方についても勉強したいという意見がありました。そこで studio-L のメンバーで、離島や中心市街地活性化まで幅広く手がける神庭慎次さんより、**仲間集めと資金集めの事例**として香川県観音寺市の取り組みを教えてくださいました。またその内容をもとに、参加者が自分たちでできることを話し合いました。



事例 観音寺まちなか再生プロジェクト (香川県観音寺市)

商店街を再生するために交流を増やそうと、ある人が「今宵もはじまりました!」と晩酌の様子を Facebook に投稿。ここから仲間が増え、飲み語りの様子をネット中継する「今宵 TV」や、高校生を巻き込んだクラウドファンディングに繋がっていきました。



大切 多様化する資金集め…クラウドファンディングって?

インターネットが発達し、資金を集める方法も多様化しました。その1つがクラウドファンディング。自分の活動を専用 Web サイトで PR し、共感した人たちが資金を支援する仕組みです。目標金額を設定し、支援に対してはレポートやグッズなどのリターン(お礼)を設定し、目標達成後に支援者へお返しします。最近では和歌山県日高地方の中学校がクラウドファンディングを使って PR 冊子を製作。豊富な事例があるので、まずは右記の代表的な専用 Web サイトを見てみましょう。

代表的な専用 Web サイト



キャンプファイア



レディフォー

地域福祉を一緒に考えた

モデル 5 団体

公開講座での団体紹介より

地域福祉ひろがるカレッジの公開講座は、応募していただいた 5 つのモデル団体との話し合いをもとに企画しました。モデル団体の活動には、地域福祉のヒントがたくさんあります。ぜひモデル団体の活動にも参加してみてください。



いきいきシニア
わかやま
八尾さん

和歌山県全域を対象に活動しています。平成 20 年 4 月に発足。明るく健やかな長寿社会を目指して、シニアのみなさんの『生きがいと仲間づくり』を応援しています。55 歳以上の方を対象に会員制で、ハイキング、歴史散策、健康体操、パソコン教室、吹き矢、手品等、年間 70 回以上のイベントを実施しています。手作りのイベントが評価されて、運営委員は頑張っています。今後も末永くシニアのみなさんにイベントを提供していきたいです。

地域の健康サポートとして、理学療法士が教える体の知識とケア方法の講座を開催しています。【自分の体の状況を知る。・自分で体をよくする体験。・自宅でできるセルフケアを知る。】この 3 つを講座で提供しています。病気になる前の予防が大切で、健康の価値を認識してもらうことを目的に、年齢に関わらず健康をしっかりと意識できるような講座を開催しています。



カラダの授業
松尾さん



元気宮前
龍神さん

つれもて健康体操、RUN 伴、慶哉寺の花まつり等に取り組んでいます。花祭りは 2 年前から始めて、500 人くらいの方が参加してくれています。今後は繋がりを目に見えて体験できる機会として、盆踊りの復活を考えています。子供から高齢者まで楽しめるし、みんなが集まれる宮前の伝統文化です。昔は 3 日 3 晩やるほど盛んで、1 日だけでも復活させて、笑顔いっぱい宮前をつくりたいです。

雑賀崎は斜面沿いに住宅が密集しており、急な坂道や階段が多く、交通弱者の通院や買い物が難しい地域です。バス停が非常に不便なところもありますが、少子高齢化が進む中で、半世紀以上公共交通が変わっていません。そこで将来の地域のことを考えて、デマンドタクシーやコミュニティバスを走らせることを考えています。



雑賀崎
ライフクラブ
宮下さん



三葛きずなの会
中村さん

三葛地区で平成 25 年 3 月に町内の独居老人の方が孤独死されたことを受け、当時の自治会長らが中心となり、ボランティアを募って設立しました。独居老人の方々の訪問から始め、今は健康体操にも取り組んでいます。毎週木曜日の 1 時半から 2 時半まで、毎回 35 名前後が集まります。また月の終わりの回の時に茶話会を開き、そこで健康講座も実施しています。

モデル団体が教えてくれました！

地域福祉に 楽しく取り組む

ヒント

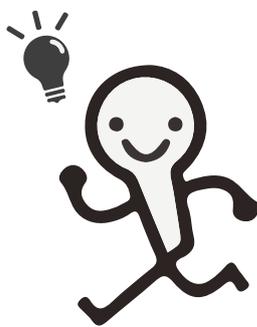
モデル団体の皆さんは自分たちの活動を続けていく上で、**たくさんの工夫**をされていました。そこでモデル団体から学んだ、地域福祉に楽しく取り組むヒントを紹介します。

自分たちが
楽しむこと
も大切！



自分たちで知恵を出し合い、活動して、発信していくことの楽しさ…。モデル団体の皆さんは、とことん話し合いながら、自分たちの活動をつくっていくこと自体を楽しまれていました。人は論理的な正しさだけでは動きません。楽しさもあることが大切です。まずは自分たちが楽しく活動できるよう、工夫してみましょう。

地域に特化して活動されているモデル団体は、その地域の情報をよく知っておられました。地域の日ごろの交流の様子、どんな人たちがどんなことで困っているのか、それらは地域の歴史とどう関係しているのか…。こうした情報は書籍を調べてみることはもちろん、地域の人たちの話を聞いてみることも大切です。



地域の情報を
たくさん
集めよう

地域の人たちが
参加したくなる
表現を使おう

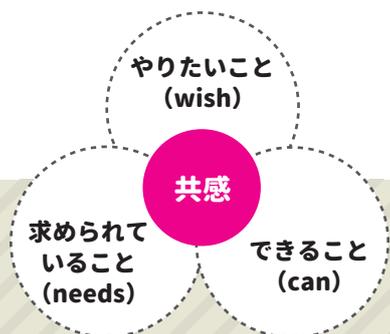


モデル団体と話し合う中で、「地域福祉」という言葉が難しく伝わりづらいという意見がありました。しかし、例えば盆踊りや茶話会など、地域の人が集い、ふれあうことによって、結果的に地域福祉につながる活動がたくさんあります。まずは地域福祉を、その地域の皆さんが楽しく参加できる活動に置き換えることから始めてみるとよいかもしれません。

地域福祉を楽しくひろげる公開講座で一緒に考えた

地域福祉のはじめ方

全 2 回の公開講座では、「活動の共感を生み出す方法」「活動の仲間の集め方」「活動に必要な資金の集め方」について、事例から学ぶとともに、参加者たちができる活動についても話し合いました。そこから出てきた意見を、地域福祉をはじめる 3 つのステップに分けて紹介します。



01

共感を生み出す
3つの輪
で整理しよう



活動を始めるにあたって、まずは自分たちのやりたいこと、求められていること、できることを整理してみましょう。これらが重なるアイデアは共感を生み出すことができ、地域で広がりやすくなります。(参考：第 1 回公開講座)

公開講座で出た意見 (例)

やりたいこと

安心、親睦、交流の機会づくり

楽しさの演出と健康維持

つながりづくり、居場所づくり

年齢差のある人
たちと交流する

地域を知りレベル
アップする

職場と地域で一緒
にイベント

地域の係（役割）
の枠を超えた試み

できること

朗読、演劇、もの
づくり

お誘いできる行事
の企画

情報をいろいろな
ところから得る

SNS で魅力を発信
する

他団体との交流

資金調達

健康づくりの啓発

求められていること

認知症でも安心
できるまちづくり

お年寄りの交通・
買い物支援

担い手の養成（担
い手の高齢化）

自治会や婦人会
などの結集

幅広い年齢層に
よる交流

地域相互間の協力

高齢者の健康支援
（介護予防）

公開講座で出た意見（例）

自分の団体が
できること

地元紙への掲載を
依頼する

Facebook で発信
する

ニュースレターを
手渡しする

中学校に声をかける

他の団体の
イベントに参加

地域の人に興味を
もつ講座を開催

参加してほしい人
が集まる所を探す

団体が連携して
できること

キーパーソンが
集まる機会を作る

色々な団体が集まる
イベントを開催

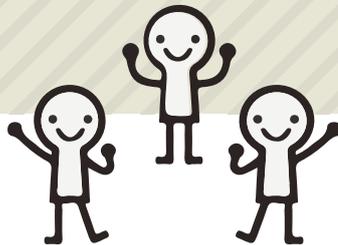
団体のメンバーの
得技を把握し、勉強会
の講師などを派遣し合えるよう
にしておく

団体同士の交流会などを開
催して、お互いの活動や人
材の情報を共有しておく

お互いの活動に参加し、困っ
ていることを把握して協力
できるようにしておく

02

活動の仲間
を集めよう

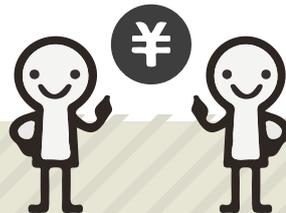


自分たちの活動が整理できたら、活動の仲間を集めていきましょう。一人ひとりが声をかけていき、SNS 等で楽しい様子を発信します。また、新しく参加した人が活動しやすい環境づくりも大切です。（参考：第 2 回公開講座）



03

活動に必要な
資金を集めよう



活動の規模が広がってくると、続けるための資金が必要になってきます。助成金などの申請や、イベントに出展してグッズなどを販売する、クラウドファンディングに挑戦するなど、手段は多様化しています。（参考：第 2 回公開講座）

公開講座で出た意見（例）

自分の団体が
できること

助成金の情報を集
める

身近な人たちに
寄付を呼びかける

活動に必要な物は
自分たちの不用品
を持ち寄り、支出
は最低限に抑える

地域で余っている農産物を
集めて、マルシェなどのイ
ベントで販売する

フリーペーパー等の団体
の広報紙を作り、企業等
から広告協賛を集める

団体が連携して
できること

クラウドファンディングや助
成金の勉強会を合同開催

クラウドファンディングな
どを始めたら団体同士でお
互いに知らせ合い、お互い
に寄付する

団体のグッズなどを販売できるイベントがあれば、
団体同士で誘い合って一緒に販売する

地域福祉を楽しく広げる公開講座 全2回参加者の声

地域活動の方々との交流ができて有意義でした。

人と人とのつながり方、チームづくりの方法、相手の話をよく聞くことの大切さがわかりました。

クラウドファンディングがそんなに難しくないということを知ることができました。

新しい知識や、新しいつながりを得ることができました。

仲間集め、資金集めでどんな行動をすればよいか、団体同士で認識しあうことができました。

情報共有の場の有効性を確認することができました。交流の場を活用したいです。

地域福祉やまちづくりに関わっている人がこんなに多いことに驚きました。

活動されている皆さんはエネルギーがあって、私も力を出さないと、と思いました。

和歌山市の地域福祉について（地域支え合い活動）

「地域福祉」とは

地域福祉とは、制度によるサービスを利用するだけでなく、制度ごとの垣根を越えて、地域の人と人とのつながりを大切にし、お互いに助けたり助けられたりする関係やその仕組みをつくっていくことです。

「地域福祉計画」とは

地域福祉計画とは助け合い・支え合いをベースとした「地域福祉」を推進するために、「市民」「団体」「事業者」「市」等の関係団体が協働し、それぞれが共有する理念と取り組みの方向性を定めたものです。

「地域支え合い活動」とは

地域の方々をつなぎ、困ったときは助けってもらったり、困っている方があれば助けてあげたり、不安や悩みを話せたり、ちょっとした相談ごとができる場や地域との交流、人間関係を築くことが大切です。高齢者などの日常生活を地域の身近な方々で見守ったり、支え合ったり、助け合ったりすることが、「地域支え合い活動」です。

「地域支え合い活動」の種類（代表的なもの）

- ① 高齢者や子供などへの「見守り」活動
- ② 困りごとを抱えた人への「生活支援」活動
- ③ 地域における高齢者などを支えあう「居場所づくり」への取り組み



問い合わせ先

和歌山市福祉局社会福祉部高齢者・地域福祉課 〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地

電話：073-435-1063 FAX：073-435-1268

メール：koureisha@city.wakayama.lg.jp